

## 2 「山形大学周辺における暮らしの安心・安全に関するアンケート (2018)」調査の概要

阿 部 晃 士

本稿では、2018年12月から2019年2月にかけて実施した「山形大学周辺における暮らしの安心・安全に関するアンケート (2018)」調査の概要について記す。

### 1. 調査対象

山形大学小白川キャンパスの周辺地域における安心・安全を考えるため、小学校の保護者を対象とする調査（以下、「五小保護者調査」とする）と、山形大学の学生を対象とする調査（以下、「山大学生調査」）を実施した。五小保護者調査の対象は、山形市立第五小学校の保護者全員である。ただし、第五小学校に兄弟姉妹が通っている家庭では、重複を避けるため、学年が上の児童1名分について回答いただいた。

### 2. 五小保護者調査の概要

#### 2.1 調査票の設計

調査票は、主に、(1)暮らしの安心・安全、(2)防災情報の入手と災害時の避難、(3)山形大学や山形大学の学生との関わり、(4)回答者自身の属性や家族に関する事、という4つの内容で構成した。表紙（記入のお願いと記入上の注意）1ページを含めると、調査票全体でA4版12ページである。

#### 2.2 調査の実施と回収状況

調査の実施方法は、自記式の配票調査である。具体的には、以下のように進めた。

- (1) 調査票と依頼状の2つを入れた封筒を、事前に確認したクラス人数分ずつにまとめ、各学校にお届けする。
- (2) 担任の先生より、クラスの児童全員に、封筒のまま配布する。児童は自宅に持ち帰る。
- (3) 保護者は調査票に記入し、封をする。児童が学校に持参する。
- (4) 開封せずに封筒のままクラスごとに集めたものを、そのまま校内でまとめていただき、研究会が受け取りにうかがう。

調査は2018年12月10日（月）から21日（金）にかけて実施した。調査票の配布数は233部で、

有効回答は165となった（回収率70.8%）。

### 2.3 回答者の属性

回答していただく方の性別は指定しなかったが、内訳は男性が17.6%（29名）、女性が80.6%（133名）、性別未記入が1.8%（3名）である。小学生の保護者であることから、年齢では30歳代と40歳代が多く、平均は41.2歳（26～54歳）であった。

また、本人の職業（従業上の地位）では、「パート・アルバイト等」（36.0%）、「正社員・正職員」（34.2%）、「無職（主婦／主夫含む）」（16.8%）の3つが多く、これらで全体の9割弱（87.0%）を占めている（表1、無回答を除いて集計）。

表1. 五小保護者調査における回答者の職業（従業上の地位，%）

経営者・役員	3.1
正社員・正職員	34.2
パート・アルバイト等	36.0
派遣社員	1.2
自営業主・自由業者	6.8
家族従業者	1.9
無職（主婦／主夫含む）	16.8
合計	100.0
（%の基数）	（161）

また、居住の経緯についての回答によると（表は省略）、「生まれたときからずっと山形市に住んでいる」（21.3%）、「子どもの頃に山形市に転入し、ずっと山形市に住んでいる」（6.7%）、「山形市で生まれ育ち、進学や就職などのため転出した後、戻ってきた」（20.7%）などの「山形市出身者」が48.8%、「進学や就職、転勤のため、初めて山形市に住むようになった」（24.4%）、「結婚して、初めて山形市に住むようになった」（21.3%）、「被災等による避難をきっかけに住むようになった」（0.6%）、「その他」（4.9%）などの「それ以外」が51.2%と、ほぼ半々になった。山形市での居住年数は平均21.9年（1年～54年）である。

## 3. 山大学生調査の概要

### 3.1 調査票の設計

調査票の内容は五小保護者調査とほぼ同様だが、「山形大学や山形大学の学生について地域住民がどう感じていると思うか」、ボランティア活動への興味・経験、現在の居住地と実家の場所（都道府県と市区町村）、通学時間なども尋ねている。A4版13ページである。

### 3.2 調査の実施と回収状況

実施方法は、人文社会科学部及び基盤教育の授業を利用した自記式の集合調査である。調査は2019年1月22日（月）から2月15日（金）にかけて実施しており、調査票の配布数は266部、有効回答は198である（回収率74.4%）。

### 3.3 回答者の属性

所属学部は、人文社会科学部が77.3%（153名）、工学部12.6%（25名）、理学部5.1%（10名）、農学部3.5%（7名）、地域教育文化学部1.0%（2名）、学部未記入が0.5%（1名）、学年は1年生36.4%（72名）、2年生28.3%（56名）、3年生16.2%（32名）、4年生15.7%（31名）、学年未記入3.5%（7名）である。また、性別では男性が35.4%（70名）、女性が64.1%（127名）、性別未記入が0.5%（1名）となっている。

表2. 山大学生調査回答者における実家の場所と居住形態（%）

居住形態	実家の場所			全体
	山形県内	宮城県内	その他	
実家	66.1	50.8	0.0	40.3
1人暮らし(アパートマンション)	27.4	39.7	85.7	49.7
1人暮らし(学生寮)	4.8	6.3	14.3	8.3
その他	1.6	3.2	0.0	1.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0
(%の基数)	(62)	(63)	(56)	(181)

なお、山形大学には、山形県内出身の学生と宮城県出身の学生が多く、今回の調査でも実家の場所では山形県が34.8%（65名）、宮城県が33.7%（63名）を占めている（表は省略）。一方、現在の居住地では山形県82.1%（156名）、宮城県17.4%（33名）である（表は省略）。また、実家の場所と居住形態のクロス集計表（表2）から、山形県内出身の学生のうち3分の1程度が1人暮らしをしていること、宮城県出身の学生の約半数が実家から通学していること、それ以外の都道府県出身者はすべて1人暮らしをしていることなどがわかる。全体では4割が実家暮らし、6割が1人暮らしである。山大学生調査のデータについては、このように、他県出身者や他県から通学している学生、1人暮らしの学生が多いことを念頭に入れて分析・解釈する必要がある。

## Method of the Research on Safe and Secure Life in Yamagata City 2018

Koji ABE